

事務事業マネジメントシート(平成31年度実績と令和 2年度計画)

令和 2年12月25日更新

事務事業名		税務協議会参画事業			<input type="checkbox"/> マニフェスト関連 <input type="checkbox"/> 全庁横断課題関連 <input checked="" type="checkbox"/> 集中改革プラン関連			
総合計画体系	政策	1	自治の健康		所属部	市民生活部	課長名	大山 由紀美
	施策	3	財政の健全化		所属課	税務課	担当者名	中島 仁
	施策の柱	14	自主財源の確保		所属班	市税班	(内線)	1122
予算科目	会計一般	2	2	1	11139	根拠法令		
終了、開始年度	<input type="checkbox"/> 31年度で終了 <input type="checkbox"/> 31年度から開始				事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (開始年度 18 年度) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (~ 年度)		

★事務事業の概要 (PLAN)

【事業の内容】	・菊池地区税協議会・菊池地区税務協議会・熊本県下都市税務連絡協議会への参画。 ・地方税及び国税の事務運営について、相互連携強化による適正な税務行政に期することを目的に設立。説明責任を果たす重要性は年々高まっており、その裏づけとなる専門的な知識と技術を習得することが求められている。
【業務の流れ】	総会、幹事会、部会研修への参加
【主な予算費目】	旅費、負担金
【意見や要望】	実務的な事例を中心に研修カリキュラムを組んでほしいとの意見がある。

1 現状把握の部 (DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分:
① 手段(主な活動) 31年度実績(31年度に行った主な活動) (DO)	菊池地区税協議会をはじめ各税務協議会の研修会への参加や情報交換により、税務職員の知識向上と税務事務の円滑な執行を図るため参画負担を行った。	2年度計画(次年度に計画している主な活動) (PLAN) 各協議会研修等参加、各協議会総会・幹事会出席、各協議会負担金支払い
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位) 人 → ア: 会議、研修会参加のべ職員数 イ:	予算の主な増減の理由 徴収フォーラムに参加するため負担金の増
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	税務課職員	② 対象指標(対象の大きさを表す指標) (単位) 人 → ア: 税務課職員 イ:
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	税務職員としての専門知識の習得、自治体間の情報交換	③ 成果指標(意図の達成度を表す指標) (単位) % → ア: 専門知識を習得できたと答えた職員の割合 イ:
*③成果指標設定の理由と 2年度目標値設定の根拠 税務課職員が専門知識を習得することが目的であるため。		総トータルコスト 全体計画 ~ 年度 0

(2) 各指標・総事業費の推移		単位	29年度 実績(決算)	30年度 実績(決算)	31年度 目標(当初予算)	31年度 実績(決算)	2年度 目標(当初予算)	3年度 予定	4年度 見込	5年度 見込	
① 活動指標	人	121	120	130	118	120	120	120	120	120	
② 対象指標	人	26	27	25	25	24	24	24	24	24	
③ 成果指標	%	100	100	100	100	100	100	100	100	100	
投資 入 費 量	財源内訳	国庫支出金	千円								
		都道府県支出金	千円								
		地方債	千円								
		その他	千円								
		繰入金	千円								
		一般財源	千円	169	174	158	155	160	220	220	220
	(A) 事業費計	千円	169	174	158	155	160	220	220	220	
	(A)のうち指定経費	千円	92	91	93	92	93	93	93	93	
	(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	
	人件費	正規職員従事人数	人	26	27	24	25	24	24	24	24
	延べ業務時間	時間	508	450	500	420	500	500	500	500	
	(B) 人件費計	千円	2,009	1,773	1,992	1,664	1,992	1,992	1,992	1,992	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	2,178	1,947	2,150	1,819	2,152	2,212	2,212	2,212	

事務事業名	税務協議会参画事業	所属部	市民生活部	所属課	税務課
-------	-----------	-----	-------	-----	-----

2 評価の部 (CHECK)

*原則は31年度の事後評価、ただし複数年度事業は31年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①31年度目標達成度評価	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 達成しなかった ⇒【理由】
	②2年度目標達成見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 目標達成見込みあり⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 専門知識を習得するための有意義な研修を継続して開催する。
有効性評価	③成果の向上余地	<input type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】 人事異動等により新たな職員の研修参加は必要であり、ほかの職員においても税制改正などによる専門知識を得るためにも毎年の研修は大変有意義なものになっている。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性	<input type="checkbox"/> 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 現時点では、他に類似事業はない。
効率性評価	⑤事業費の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 市町による負担金額が決まっているので、本市単独での負担金の削減はできない。
	⑥人件費 (延べ業務時間) の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 専門的な知識を身に付けるために必要なことであり削減余地は無い。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】 適正な課税をするための税務課職員の研修等であり公平である。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 役割分担は適正である ⇒【理由】 職員の税務関係専門知識の習得の事業であるため、役割分担は適正である。

3 評価結果の総括 (CHECK)

本事業による研修会の開催は、職員に大変有意義なものになっている。研修への参加は専門知識や技術を身につけるために必要であり、今後とも継続していく必要がある。

4 今後の方向性 (事務事業担当課案) (ACTION)

<p>(1) 今後の事業の方向性 (改革改善案)・・・複数選択可</p> <p><input type="checkbox"/>廃止 <input type="checkbox"/>休止 <input type="checkbox"/>目的再設定 <input type="checkbox"/>事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/>事業のやり方改善 (有効性改善)</p> <p><input type="checkbox"/>事業のやり方改善 (効率性改善) <input type="checkbox"/>事業のやり方改善 (公平性改善)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>現状維持 (従来通りで特に改革改善をしない)</p>	<p>(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要)</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持		○																			
	低下																					
<p>(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題 (壁) とその解決策</p>																						